教育のぼりべつ

令和４年
12月1日
No,36

発行；登別市教育委員会 TEL0143-88-1100　〒059-0014 登別市富士町７丁目 33 番地

今年の学校祭無事に開催 行灯行列復活！！

今年度の市内中学校の学校祭は、全校で無事に実施され、楽しい時間となりました。

幌別中学校では、「創史相愛」をテーマとして９月 16・17 日の２日間の開催となり３年ぶりに行灯行列が復活。生徒たちが制作した地元や道内の祭りを再現した７基の行灯がまちを練り歩き、沿道から拍手が送られました。途中、幌別小学校に立ち寄り、児童や先生方の歓声を受けました。終了後、行灯は登別中央ショッピングセンターアーニスに展示されました。

また、西陵中学校の学校祭では、「笑顔満祭～楽しんだもん勝ち～」をテーマとして、１・２年生が作成した切り絵と行灯の作品は、市民会館に展示されました。



３年ぶりの行灯行列(幌別中学校)



アーニスで展示された行灯(幌別中学校)





市民会館に展示された作品(西陵中学校)

令和４年度登別市「鬼っ子フォーラム」

１１月１５日（火）、市民会館を会場に、市内小中学校、高等学校の児童会・生徒会代表が集まり令和4年度登別市「鬼っ子フォーラム」が開催されました。

当日は、室蘭工業大学の清末愛沙教授から「平和のかたちは　いろいろ」と題した講演が行われ、「非暴力的な社会を実現するためには個人の努力が求められる」と訴えました。講演後に小中高の代表6名がパネラーとなり、「今、わたしたちにできること」と題してトークセッションを行い、「いじめがなぜ起きるのか」「いじめを無くすためにできることは」などについて議論しました。その中で「いじめを見つけたら止めたい」「友達との関わりや自分を見つめ直す時間を増やしていきたい」「無意識でも人の悪口を言わない」「その人のことを知ろうとする努力が必要だ」など、人としての生き方や人との関わりについて考えたり、多くの意見が出されたりした充実したフォーラムとなりました。フォーラムの最後には、代表者から「鬼っ子宣言」と「ピンクシャツデー【来年２月】」の実施を発表しました。発表された鬼っ子宣言の実現に向け、各学校で取組を進めることを誓い閉会しました。







鬼っ子宣言 2022
互いの個性を認め合い、協力し、笑顔ですごせる楽しい学校を目指します

ピンクシャツデーは、ピンクシャツを着たりピンク色のものを身につけることで「いじめ反対」の意思表示をする日です。こどもから大人まで誰もが参加することのできるシンプルなポジティブキャンペーンです。現在は約 180 の国や地域に広がり世界的キャンペーンの一つとなっています。



広いステージを生かして「学習発表会」

１０月１５日（土）幌別西小学校で学習発表会が開催されました。昨年は、各家庭でのタブレットによる動画視聴での開催でありましたが、今年度は児童の発表場所の確保や保護者席の間隔を確保するために、各家庭保護者１名の入場制限を設けた上で、保護者が参観しての開催となりました。体育館半分の広いステージでマスクをつけての発表となりましたが、児童は、精一杯の声で、参観している保護者に届くようにと頑張っていました。



１年生「にんじゃで ござる」
初めての学習発表会



3年生「Happiness～ぼくたちのミュージカル」のバンブーダンス



６年生「青空の向こうへ」
最後の学習発表会

知里幸恵さんの故郷登別で　12年ぶりに上演！

知里幸恵一人芝居「神々の謡～知里幸恵の自ら歌った謡～」

１０月５日（水）・１０月６日（木）、登別小学校と鷲別小学校の４～６年生の児童及び登別中学校の生徒が、劇団ムカシ玩具の舞香さんによる一人芝居を鑑賞しました。今年は「アイヌ神謡集」を著した知里幸恵が亡くなって１００年。祖先の言葉を未来に残した彼女の生涯を描いた一人芝居でした。

差別の厳しかった時代、アイヌであるという誇りを失わず祖先たちが大切にしてきたアイヌ語を残すため命を懸けて立ち上がった一人の少女の物語です。シンガーソングライターのいわさききょうこさんが、歌とピアノ演奏で芝居を盛り上げました。子どもたちは、迫真の演技を最後まで真剣に見入っていました。感動の80分間でした。





登別市教育実践研究奨励校
登別市立鷲別中学校　公開研究会

１０月２７日（木）、鷲別中学校において「２学年数学～多角形の内角の和について」の授業と「３学年保健体育～柔道」の授業が公開されました。

研究主題を『「学び合い」を通して、自ら物事を捉え、思考していける生徒の育成』と設定し、各教科で主体的・対話的な学習活動を適切に取り入れた授業づくりを進めてきました。数学の授業では、多角形の内角の和を求めるための公式を導き出すために、デジタル教科書を使用しながらイメージを共有し、対角線を引いて三角形に分割する方法に気づくことができました。ペアでの対話を繰り返し、多角形の内角の和の求め方の考えを説明することで、より自分の考えを深める授業となりました。



3年生体育柔道受け身の練習



2年生数学　ペアで内角の和を確認

文化芸術による子供育成推進事業

「能」について　ワークショップで学習・体験

１０月２８日（金）に文化庁主催「文化芸術による子供育成推進事業（巡回公演）」ワークショップが登別小学校で開催されました。

ワークショップでは、公演団体（公益財団法人鎌倉能舞台）の能楽師より能についての説明があり、同校の６年生が「能」の歴史や舞台・演出・能面等について学びました。中でも能は、「能面」を使うことが多く、俯くなどしたときの微妙な角度で多様な表情を表すこと、その動きは静かな中に力強さがあるもので、一つ一つの動きに「型」と言う決まりがあり、切り詰めた最小限の動きで演技を行っていることを学びました。

このワークショップを受けた６年生は、１１月３０日（水）に総合体育館で行われる能楽の公演の中で能「敦盛」の「謡」の一部を一緒に謡います。ワークショップでは、謡の指導も行われ、参加した子どもたちは、熱心に練習に取り組んでいました。

当日は、市内全小学校の６年生が午前と午後に分かれて鑑賞します。





インターネット社会の子どもたちへ

～今、大人のできること、すべきこと～

11月5日（土）富岸小学校でメデイアトラブル講演会が保護者対象に開催されました。

講演は「ネット・ゲーム依存から子どもを守る～予防のために大人のできること、すべきこと～」と題して行われ、講師は NPO 法人お助けネット代表中谷通恵さん。

学校でも端末を扱うようになり、スマホの所有に関わらず多様な情報収集や自己表現の場が増えてきた中、トラブルの事例と未然防止の方法や個人情報の扱いについて考えさせる講演となりました。

特に**「ネットでの遊び」と「ネットでの学び」の我が家のルールを決めるのは、今！**と強く呼びかけていました。例えばスマホ・ネット遊びでの使用時間、夜の終了時間（就寝時間を決めて守らせる！）、使用場所の制限（夜は、親に預ける、居間に置く等）、ブラウザ型フィルタリングをかける、オンラインゲームはできるだけやらない（依存しやすい）等があげられていました。

